

中国の「一带一路」構想における対南アジア外交の近況

三船恵美 (駒澤大学 専門: 現代中国の外交・国際関係論)

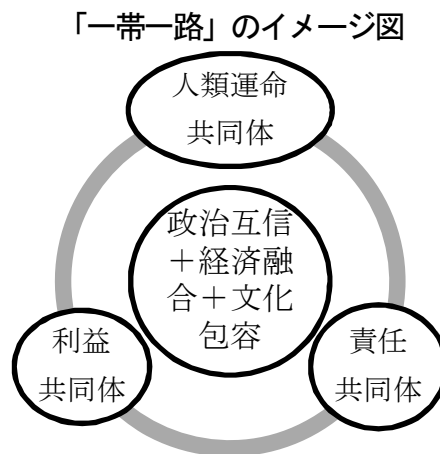
■ 報告の構成

はじめに

- I. 「一带一路」構想 (「経済圏構想」のみではない、「勢力圏構想」)
- II. 「一带一路」構想で展開する対外戦略: 「5+α」のコネクティビティ
- III. 対南アジア外交の近況 (概況)
 - ① 中印間の勢力圏争いに揺れるスリランカ
 - ② 中国と軍事交流が深いバングラデシュ
 - ③ 「インド依存型」から脱却を始めたネパール
 - ④ 「2つの海の交わりの結節点」ミャンマー (東南アジアではあるものの)
 - ⑤ 戦術としての「全天候型パートナー」のパキスタン
 - ⑥ 苛立つインド

おわりに: 中国の『一带一路』構想と日本への影響

I. 「一带一路」構想 (「経済圏構想」のみではない、「勢力圏構想」)



1. 「協力・ウィンウィンを核心とする**新型国際関係、人類運命共同体**」の構築
2. 「一带一路」の提携範囲
3. 海のシルクロード: 「海洋経済 (ブルー・エコノミー)」の**3つの重点**建設ルート
 - ★ **中国 — インドシナ半島経済回廊 — 南シナ海 — インド洋**
 - ★ 中国 — オセアニア — 南太平洋
 - ★ 中国 — 北極海 — ヨーロッパ(国家発展改革委員会・国家海洋局 2017年6月発布《“一带一路”建設海上合作设想》)
4. 中国が「一带一路」でねらう「新しい国際関係」

5. 世界の大変局は中国の「一帯一路」にとって好機
6. 「中国は自らの特色ある大国外交を行わなければならない」



II. 「一帯一路」構想で展開する対外戦略：「5+α」のコネクティビティ

1.
 - ①政策面における意思疎通
 - ②交通輸送網・通信網の形成
 - ③貿易の円滑化の推進
 - ④資金の融通と通貨流通の強化推進
 - ⑤相互理解の深化

「5通（5つのコネクティビティ）」の根底にある「プラスα（宇宙+サイバー+海洋）」

III. 対南アジア外交の近況（概況）

南アジアの小国にとって「中国は朋友、インドは親戚」
⇒ 「**中進印退**」の大趨勢」という中国側の認識

2012～2016年に、インドと中国が南アジアで勢力圏を競争する国ならびにインドの対立国に対する国に対する、通常兵器移転のトップ3のシェア（単位：％）の推移（SIPRI）

	1位		2位		3位	
	国名	シェア%	国名	シェア%	国名	シェア%
インド	ロシア	68	アメリカ	14	イスラエル	7.2
パキスタン	中国	68	ロシア	16	イタリア	3.8
バングラデシュ	中国	73	ロシア	13	アメリカ	5.2
ミャンマー	中国	70	ロシア	19	ベラルーシ	4.5
アフガニスタン	アメリカ	59	ロシア	27	ブラジル	6.6

- 1 中印間の勢力圏争い（「一帯一路」vs.「香料の道」）に揺れるスリランカ
- 2 中国と軍事交流が深いバングラデシュ
- 3 「インド依存型」から脱却を始めたネパール
- 4 「2つの海の交わりの結節点」ミャンマー
- 5 戦術としての「全天候型パートナー」のパキスタン：アバシ政権とも良好な関係構築
- 6 苛立つインド

おわりに：中国の『一帯一路』構想と日本への影響